

《 豚回虫 (Ascaris suum) の感染防御に関連する新規蛋白質 》

< 発明概要 >

豚回虫の駆除・感染防御ワクチンを提供する上で有効となる、新規蛋白質を同定した。

■ 本発明の背景

現在、豚回虫への対策は駆虫薬のイベルメクチン、レバミゾール等が用いられており、コスト面や薬剤耐性、畜産物への薬物残留が懸念されている。

現在、豚回虫ワクチンは市販されていないが、実現すれば上記の懸念を回避するだけでなく、豚回虫幼虫が成虫になる過程で発生する、寄生豚の肝臓に白斑（ミルクスポット）が生じる現象に対しても効果が期待できる。

不活性化ワクチンの場合、豚回虫を入手する必要があるが、回虫の安定供給は困難であり、その点において、組み換え蛋白によるワクチンは安定した生産供給で利点がある。

これまでに、豚回虫組み換え蛋白の免疫による感染防御に関し、豚とマウスにおいて、As14, As16, As24, As37 の各蛋白質による結果が報告されている。

■ 本発明の内容

本発明は、豚回虫の腸管を標的とした感染防御方法が、より効果的な駆除につながることを考え、遺伝子ライブラリーの探索を行った結果、新規な蛋白質を見出した。

- ・新規蛋白質の抗体を用いた免疫組織染色の結果、表皮、腸管、子宮で多く発現する。
- ・新規蛋白質の免疫マウスと非免疫マウスの比較実験の結果、排除効果を確認した。

< 発明者 >

東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻 松本 安喜 准教授

(発明者への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。)

< 備 考 >

特許出願済み

< お問い合わせ先 >

株式会社 東京大学 TLO (CASTI) 岩倉 綾子 (いわくら あやこ)

TEL: 03-5805-7707 (直) E-mail: iwakura@casti.co.jp HP: <http://www.casti.co.jp/>